



松田 憲幸  
ソースネクスト  
取締役社長

経済同友会 つながる▶▶  
リレートーク  
#235

▶▶ 次回リレートーク

廣渡 嘉秀  
AGSコンサルティング  
取締役社長

## ITインフラで どこでも働ける社会を



間下 直晃  
ブイキューブ  
取締役社長CEO

日本全体の人口が減っている中で、東京は人口1,300万人、首都圏で言えば3,500万人規模といわれ、一極集中が一層進んでいる。だが、本当にこのままでよいのだろうか。

日本の地方は埋蔵資産の宝庫だと思う。現地の方も東京の人も気付いていない価値をアピールし、東京の若者を引き込んで、地域の若者を活性化していくことができる。大都市から仕事と雇用を移動させる動きを地方からもやっていく。そこに東京なり地方なりの若者を登用する。それによって起業支援などで新しいビジネスを創っていくという循環が生まれることが、一つの鍵になるのではないかな。

地元を愛を持っている人はたくさんいる。地元に戻って仕事をしたいと思っている人もたくさんいるが、やりたい仕事がない。東京へ出て行ってしまった若者をどう戻していくのか。若者が活躍できる場所を地域にどう創っていけばいいか。

まず考えられるのは、東京にある仕事で地方でもできる仕事を切り出し、地方へ持っていき、サテライトオフィスなどを整備して仕事の受け皿を作っていく。東京は慢性的な人手不足の一方で、地方は仕事がない。このアンバランスな状態をテレワーク活用で、日本全体で分散させて解消していく。東京と同等の給与水準を用意することで地元に戻って来る人も増え、若者が帰って来れば現地の若者にも活気が出る。ITインフラは、インターネット回線で見ると日本全国津々浦々ほとんど問題なく普及している。

また、仕事だけでなく生活面での環境整備も同時に必要になってくる。教育や医療といった分野でも、これまで規制によって普及が遅れてきたが、政府の積極的な構造改革により遠隔医療や遠隔教育によって距離の壁は解決することが可能になる。

ITインフラを活用することで地方の良好な住環境、職場環境をしっかりとアピールする。場所を問わない働き方をつくることによって、東京に偏り過ぎている人口、若者を地方に散らしていく。それによって出生率も上がるのではないかな。どこでも働ける働き方で日本をもっと元気にしていきたいと考えている。